

# 地域の会



▲第52回定例会（柏崎市西山町いきいき館）



◀第51回定例会（柏崎原子力広報センター）

## CONTENTS

第51回定例会	
地震直後の情報伝達及び対応について……………	2
第52回定例会	
地震発生による原子炉の停止状況について……………	3
発電所を巡る主な動き	
地域の会に寄せられた声「みんなの広場」……………	4

### 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会（「地域の会」）

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

#### 地域の会 概要

- ①会員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた24名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視  
(2)事業者等への提言  
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供  
(4)委員の研修  
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会（毎月1回）  
臨時会（必要に応じ開催）  
※会は、原則すべて公開。

# 第51回定例会

## 地震直後の情報伝達及び対応について

### 第51回定例会の概要

開催日	平成19年9月5日(水)
場所	柏崎原子力広報センター(研修室)
出席者	21名(欠席3名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 保安検査官事務所 地域担当官事務所 東京電力(株)
内容	●前回定例会以後の動き ●地震直後の情報伝達及び対応について ●その他

**地震発生直後の情報伝達、広報、変圧器火災、について、各機関から報告。**

#### 【質疑応答】

#### 【情報伝達、広報等について】

**Q** なぜ、新潟県から保安院へ避難の必要があるか見解を求めたのか。

**新潟県** 複合災害も視野に入れ指導監督をしている保安院にも確認したほうがよいという知事の判断。

**Q** 避難指示は、誰が判断するのか。

**保安院** 原子力災害の可能性がある場合には、国と地元自治体と事業者が連絡を取り、国が判断する。

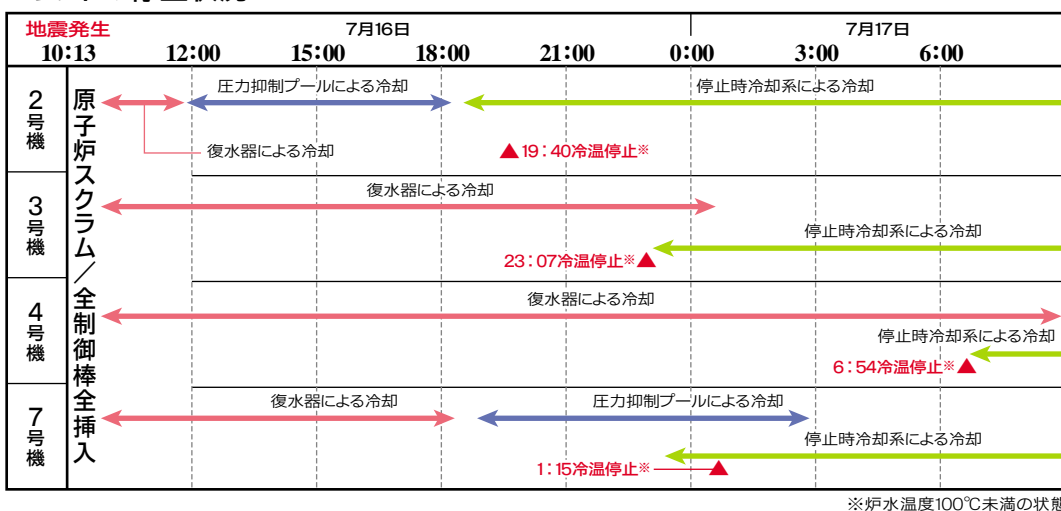
**Q** なぜ、衛星電話は使えなかったのか。

**東京電力** 緊急時対策室と宿直棟に配置してあったが、2箇所とも被災しており、すぐには使用できなかった。

**Q** コウ素剤は各家庭に配布しては。

**柏崎市** 保管管理の面から避難施設である各小中学校に分散配置している。なお、薬局で購入できるよう薬剤師会にお願いしている。

#### プラントの停止状況



#### 【発電所の状況、対応等について】

**Q** 発電所敷地内の断層が地殻変動を起こしたのではないか確認の指示は出していないのか。

**保安院** 状況調査の指示を出している。また、「中越沖地震における原子力施設に対する調査・対策委員会」で、東京電力が敷地内周辺でどのような調査をすべきか審議を始めている。

**Q** 6・7号機中央制御室の蛍光灯が80本も落ちたが、発電所敷地内は柏崎市内より震度が大きかったのではないのか。

**東京電力** 震度は市内と同じ6強程度だった。数珠繋ぎの間接照明が2連落ちたもので、他の照明は落ちていない。

**Q** 開放基盤で993ガルという加速度の数値は本震のものか。

**東京電力** 本震時、地下255メートルの観測値。

**Q** なぜ、2号機を冷却する際に低圧炉心スプレー計を手動で動かしたのか。

**東京電力** 非常用の炉心冷却用としては自動信号で起動するが、今回は炉心水位の維持のため便宜的に手動で動かした。

**Q** なぜ、3号機と4号機を冷やすのに3号機を優先したのか。

**東京電力** 冷却に必要なボイラーが地震の影響で1台しか使えず、これでは原子炉1基分しかないので、建屋ブローアウトパネルが開放した3号機を優先した。

**Q** 起震車で深度2、3キロのところを調査して断層がわかるのか。

**東京電力** 内陸型の大地震では地表面まで変位があり、調査で分ると考えている。

**Q** 1年以内に運転再開と言っているのは本当か。

**東京電力** 今は被災調査の段階。詳細な調査も必要であり、再開を議論する段階ではないと思っている。

#### 【変圧器火災等について】

**Q** 発電所での消防用設備等の設置基準はないのか。

**市消防本部** 発電所の消火設備は法定基準に適合している。

**Q** 変圧器火災は、発生時、化学消防車があれば対応できたのか。

**東京電力** 消防隊長は消せると言っていた。現在は配置している。

**Q** 火災が発生した変圧器の復旧は、

火災が起きないものに変えるのか。

**東京電力** 地盤対策を講じており、同型になると思う。

**Q** 緊急時に対応できるように社員の体制になっているのか。

**東京電力** 当番者を構内に常駐させ、発電所近くの寮に主要な職員を配置して短時間で到着できるように対応している。また、緊急時には社員が集まる社内ホールがある。

#### 【風評被害について】

**Q** 放射能漏れが、風評被害にどの程度影響があるか予測はしたのか。

**保安院** 地震直後の時点で、風評被害が起きるとは予測していなかった。

**Q** 風評被害の補償も信頼回復のひとつになると思うが。

**東京電力** 新潟県内の物産購入や観光に力を入れて取り組んでいる。

**新潟県** 東京電力との安全協定で補償に関する部分があるが、適用について検討しているところ。

**保安院** 原子力損害賠償法については、今回の風評被害は対象でないと考える。

#### 【その他】

**Q** 現在、発電所構内の協力企業作業員は何名か。職を失うことはあるのか。

**東京電力** 現在は、3200名ほど。雇用の不安を与えないよう努力、対応していく。

#### 【各委員からの意見・要望】

●毎回、放射能漏れは微量だと片付けられている。微量であれ、漏れたことには変りない。

●今回の地震こそが、大きな原発災害の具体的な例。種々対策をしているはずなのに、なぜ有効に機能しないのか検討してほしい。

討してほしい。

●多くの救助要請がある中で、消防車4台を原発に割かなければならないというところは、発電所が大変な施設だと改めて認識した。

●東京電力は、従業員や地域住民の安全を考え、市の消防に頼らない位の自主防災体制をとってほしい。

●防災訓練時のマニュアルもあり、それを活かしてほしい。

●大事な情報は繰返し流し、一方通行でなく二重にフィードバックする方法等、有効性を研究してほしい。

●マスコミの情報は、正しいものが伝わるかは疑問。県、市、村等が直接する方法を考えた方がよい。

●国、県、事業者が、マスコミとコミュニケーションをとり情報の伝達方法を検討してほしい。

●小回りのきく広報車などで住民の身近なところまで連絡が行き届くようにしてほしい。

●風評被害に対し、迅速な対応がなされなかったことが、多大な被害を及ぼした。テレビなどで1時間に1本位のスポットを流す等、早めの対応をすべきだ。

●風評被害は、国の機関が全く想定していないことが一番の問題。

●東京での物産展などで大勢の人が応援してくれている。その輪を広げ、復興するためにきちんと情報を出してほしい。

●テレビコメンテーター等が、事実を吟味せず放射能漏れを指摘するのは問題。

●東京電力社長や県の専門委員が「いい体験だった。」「いい実験だった。」「一、二年で運転再開は大丈夫。」等、保安院が軽く受け止めているのが心配。

# 第52回定例会

# 地震発生による原子炉の停止状況について

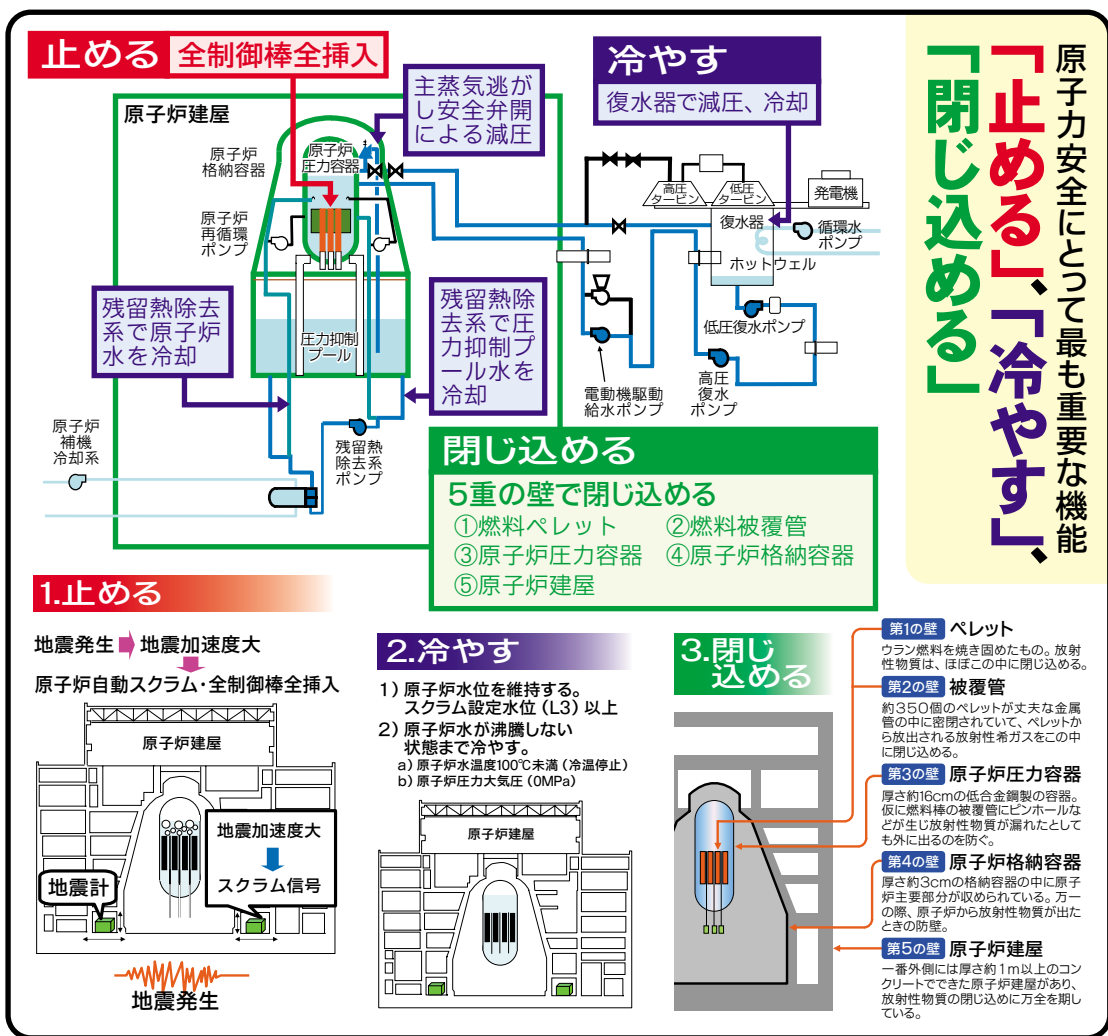
## 第52回定例会の概要

開催日	平成19年10月3日(水)
場所	柏崎市西山町いきいき館 (いきいきホール)
出席者	22名(欠席2名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 保安検査官事務所 地域担当官事務所 東京電力(株)
内容	●前回定例会以後の動き ●原子炉4基の停止状況について ●その他

前回定例会(9月5日)以降の動きについて、各機関から報告。東京電力から中越沖地震の発生時、起動中の2号機及び運転中の3・4・7号機の停止状況について説明。

### 【質疑応答】

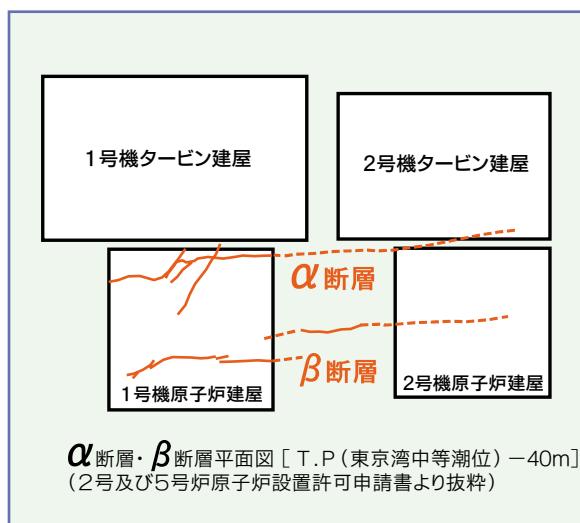
- 刈羽村滝谷地内の県道で、東京電力の委託会社が県警の許可を得ずに測量していた。国や県は知っているのか。  
保安院 調査に当たり、適切な手続きを取るよう指導して行きたい。
- 新潟県 手続き無しで調査が行なわれたことは、大変残念なこと。  
東京電力 委託会社が警察への届けを忘れていた。管理の不十分さを反省している。
- アルファ・ベータ断層の調査をするのは、東京電力の自主的なものか、保安院の指導なのか。  
保安院 直接指示はしていないが、必要な地質調査を求めている。
- 国が直接地質調査をするということはあるのか。



- 保安院 第一義的には事業者が行うべきだ。必要なら行ないたい。  
○ 今回の地震発生で、原子炉は網渡り的なイメージで止まったのか。  
東京電力 日頃の訓練、事故時のマニュアルなどの範囲の中で操作できた。
- 地震時の中央制御室の震度はどの位だったのか。またその時の運転員の様子は。  
東京電力 3年前の中越地震よりはるかに大きな揺れだった。揺れが収まるまで動けず、操作ができなかった。しかし運転員としての責任感とプロ意識からすぐに運転操作に集中した。
- 運転員の訓練、緊急時のマニュアルとはどういったものか。  
東京電力 BWR運転訓練センターで訓練を行っている。地震時対応の訓練もしている。
- 地震計が作動しなかった、データがとれていないという説明があったが。  
東京電力 地震計は、原子炉を自動的に停止するためのものと、地震の加速度、波形を記録するものがある。余震が連続して起きたため、後者の地震計で、一部、記録能力を超えてデータ

- 今回、外部電力は供給されていたが、外部電源が喪失するような事態も考えているのか。  
保安院 どういう形で電源が確保されたのか、どの系統が生きていたのか等、東京電力の検証結果を評価したい。より大きな地震に対する弱点は無かったかも検討したい。
- 泉田知事が廃炉もあり得ると発言したが、発言に対する感想は。  
東京電力 東京電力が行うことは、被災現場の復旧と地質調査をしつかり行い、新たな耐震の安全性評価と対策をとることである。
- 東京電力は、信頼回復のために、今後どのような広報活動をするのか。  
東京電力 徹底した情報公開や分かり易い説明をしていくこと等、広報誌のみでなく、いろいろな手段を検討して、理解を得る努力をする。
- 原子力防災について、今後どのような形で強化、改善を行なうのか。  
保安院 今回の地震で住民が非常に不安な状況になったことから、その要因を分析し、国、自治体、事業者の協力も含め、どのような対応をとるべきか、初動体制のあり方等検討している。
- 柏崎刈羽原子力発電所から首都圏への電力供給が止まったが、不足分はどう補っているのか。  
東京電力 他の電力会社からの電力融通、火力発電の稼働増、節電のお願いなどで対応した。
- 新耐震指針について、柏崎刈羽原子力発電所の被災が、重要な新見であれば、当然見直しを求められると思うか。  
保安院 指針の所管は、原子力安全

- 委員会であるが、今回の地震で得られる知見を踏まえ、検討されるものも聞いている。
- 各委員からの意見・要望  
●原子力防災訓練も、地震によることが織り込まれていないと安全、安心に繋がらないのではと思う。  
●新耐震指針の適用範囲について判断するのが、電力会社、保安院、原子力安全委員会が独占されているが、この判断に対する国民の信用が、本当に今あるのか問題。  
●国は東京電力に調査を命じただけという印象。新潟県が主体になり、地盤や敷地の調査をし、真相を解明することが地域の信頼を確保する唯一の道。  
●昨年、地震についての勉強会をしたが、いろいろな考えを持つ専門家の話を聞きたい。再度勉強会を持つてはどうか。



# 発電所を巡る主な動き (8月1日~10月3日)

- 8月1日 新潟県中越沖地震の影響について午後3時現在公表  
保安院 中越沖地震における柏崎刈羽原子力発電所の  
プラント状況について詳細の事実確認作業を実施
- 2日 新潟県中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
新潟県中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
保安院 中部電力株より、浜岡原発5号機の原子炉熱  
出力降下事象についての報告書を受領
- 3日 柏崎刈羽原子力発電所における平成19年新潟県中越沖  
地震時に取得された地震観測データのデジタルデータの  
公開について公表
- 6日 新潟県中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
新潟県 国際原子力機関(IAEA)による、調査着手に  
関する知事コメント
- 7日 新潟県中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
新潟県中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
保安院 中越沖地震における原子力施設に関する調査  
対策委員会(第2回)を開催
- 8日 新潟県中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
新潟県中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
保安院 中越沖地震に関する原子力施設に関する調査  
対策委員会(第2回)を開催
- 9日 新潟県中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
新潟県中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
保安院 中越沖地震に関する原子力施設に関する調査  
対策委員会(第2回)を開催
- 10日 柏崎刈羽原子力発電所における新潟県中越沖地震に伴  
う原子炉施設故障等報告及び電気関係事故報告の提  
出について公表
- 11日 新潟県中越沖地震に関する、放射線監視情報第4報  
結果(第4報)
- 17日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業に係る不適等  
について(週報・平成19年8月10日)8月16日公表  
新潟県中越沖地震の発生を踏まえた柏崎刈羽原子力  
発電所における地質調査の実施について(第3報)  
公表
- 20日 東京電力(株)原子力発電所の耐震安全性評価実施計画  
の見直しについて提出について公表  
新潟県 中越沖地震に関する、農林水産物の放射能測定  
結果(第5報)
- 21日 保安院 各電力会社等より、耐震安全性評価の実施計  
画の見直しについて報告を受けた
- 22日 新潟県中越沖地震に関する、農林水産物の放射能測定  
結果(第5報)
- 23日 柏崎刈羽原子力発電所における新潟県中越沖地震に伴  
う原子炉施設故障等報告及び電気関係事故報告の提出に  
ついて(週報・平成19年8月17日)8月22日公表  
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業に係る不適等  
について(週報・平成19年8月17日)8月22日公表  
変圧器防油堤内のひび割れ等公表
- 24日 協力企業倉庫跡におけるけが人の発生について公表  
保安院 中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
保安院 中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
保安院 中越沖地震における原子力施設に関する調査  
対策委員会は、原子力施設に関する自衛消防及び情報  
連絡提供に関するワーキンググループを開催
- 28日 柏崎刈羽原子力発電所構内での車との接触による腕の負  
傷について公表
- 29日 新潟県 原子力発電所周辺環境監視評価協議会臨時会開催  
送電ケーブル用ダクト内非管理区域におけるけが人の  
発生について公表
- 30日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適  
合について(週報)公表  
新潟県 中越沖地震に関する、海水の放射性物質測定結  
果(第4報)
- 31日 原子炉施設保安規定の変更認可について公表  
新潟県 中越沖地震に関する、農林水産物の放射能測定  
結果(第6報)
- 9月4日 柏崎刈羽原子力発電所構内における蜂刺されについて公表  
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適  
合について(週報・9月6日)公表
- 6日 タワー建屋におけるけが人の発生について公表  
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適  
合について(週報・9月13日)公表
- 7日 保安院 東京電力株より、中越沖地震における柏崎刈  
羽原発のプラント状況について情報提供を受けた  
柏崎刈羽原子力発電所構内における蜂刺されについて公表  
保安院 関西電力株より、大阪原発1号機の原子炉手  
動停止事象に関する、原因と対策に係る報告書を受領
- 10日 新潟県中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
新潟県中越沖地震の影響について午後5時現在公表  
保安院 中越沖地震に関する原子力施設に関する調査  
対策委員会(第3回)を開催
- 11日 主排気ダクト(地上部)の点検結果について公表  
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適  
合について(週報・9月13日)公表
- 12日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適  
合について(週報・9月13日)公表
- 13日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適  
合について(週報・9月13日)公表
- 14日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適  
合について(週報・9月13日)公表
- 18日 柏崎刈羽原子力発電所構内専用港(非管理区域)にお  
けるけが人の発生について公表  
3号機の定期検査開始について公表  
原子力発電所から発生する使用済燃料の平成19年度輸  
送計画の変更について公表
- 19日 保安院 北海道電力(株)より、泊原発1号機の原子炉手  
動停止の原因と対策に係る報告書を受領
- 20日 定期検査中の1号機原子炉複合建屋屋上(非管理区域)  
における火災について公表  
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適  
合について(週報・9月20日)公表
- 25日 保安院 関西電力(株)より、美浜原発2号機における蒸  
気発生器二次冷却材人口管溶接部の損傷について報告  
を受けた
- 26日 保安院 北海道電力(株)に対し、泊原発の新開閉所での  
火災発生に係る再発防止対策の徹底・強化を指示  
1号機における炉内点検(アーク)状況について公表
- 27日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適  
合について(週報・9月27日)公表  
敷地内および敷地近傍における断層調査の実施について  
公表
- 10月1日 新潟県中越沖地震に係る、1号機仮置きプール内  
の気水分離器の目視点検状況確認  
1号機における炉内点検(アーク)状況について公表  
保安院 北海道電力(株)に対し、泊原発3号機建設現  
場のシート格納箱からの白煙発生に関し、原因究明と再  
発防止対策の検討を指示

※号機のみ記載は柏崎刈羽原子力発電所分  
色は東京電力の動き 色は行政の動き

## 地域の会に寄せられた声 みんなの広場

**あれから半年過ぎて**  
柏崎市 石田 ヨシ子さん

四月いっぱい二年の任期を終えホッとして過ごしています。  
任期中の二年間は結構忙しく、勉強不足で知らない事の多い私には荷の重い面もありましたが過ぎてしまつといい思い出です。  
半年過ぎホッしてはいますなどとはとんでもないことですよ。考えてもいなかった大地震。多くの人を苦しめました。ほんの数分の出来事が人生を狂わせたとも言えるものです。残念ながらお亡くなりになられた方々もあられます、お悔やみもうしあげます。  
この地震でお膝元にある保安院ではなく、海外のIAEAに安全の確認をしてもらうという、まさに想定外の出来事から始まっています。何を信じればいいのか、情報が無い事がこんなに不安な事とは思いませんでした。普段は情報過多で正確な情報を選択するのさえ難しい現代なのに。  
今、地域の会に対する思いはますます大きくなっているのではないのでしょうか。私はとても期待しています。安心、安全に暮らして行くために、たくさんの事をしっかり討議し、私たち市民にも思いが届くように頑張ってもらいたいと願っています。



**人の情にふれて**  
柏崎市 若林 幹雄さん

「学校の畑でとれたミニトマトです。食べて気をだして下さい。」八十路の夫婦にマグニチュード7に近い地震は厳しく、二田小学校体育館に世話になって間もなく、二年生の生徒さんと先生が。発生二日目には名古屋市からの給水車が、自衛隊が、日を待たず福島県、兵庫県からボランティアの人達が。人の情にふれて目頭を熱くしたことも幾度だったか。  
一方、東電柏刈原発の全炉の休止は、地域住民に一層の不安と怒りをかきたててしまった。日本のエネルギー産業が、石炭と水力から石油にかわり、その次は、好むと好まざるとにかかわらず原子力の時代が来ると言われて久しい昨今、住民優先か否かが企業存亡のバロメーターと言ったら言葉が過ぎましようか。  
そもそも宇宙のはじまりは、水蒸気のような水泡の物質が、軽きものは天に、重きものは地となり、地は泥海のような半固体から漸次固体化し、植物鉱物が発生し、生物の誕生と現在に至っている。泥海が固体になるとは大自然の硬化作用で、地球ならばその容積は減ずる、この地殻の収縮が地震の原因で、日本海は大収縮によって陥没したが未だ完全なものでないと聞く。日本と朝鮮半島が陸続きだったと教えられ、古老の以前は砂浜で運動会をやったもんだ、と、今こそ太陽エネルギーや代替エネの開発こそ急務と思うが。

「視点」では皆様のご意見をお待ちしています。  
宛先は下欄住所まで、またメールでも受付けております。

**今後の「地域の会」定例会の開催案内**

**第55回定例会**  
日時：平成20年1月9日(水)午後6:30~  
場所：新潟県柏崎刈羽原子力防災センター

**第56回定例会「情報共有会議」**  
日時：平成20年2月6日(水)午後6:30~  
場所：柏崎市市民プラザ(風の部屋)

※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

会は公開で行われています。お気軽にお越し下さい。

**地域の会ではホームページで活動の全てを公開しています。**

ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。  
また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>

編集後記

地震から数ヶ月が過ぎましたが被災の痕は、いたるところに残っています。一瞬のうちに日頃の生活が破壊されてしまいました。夢であれば良いのにと思っても、現実には現実です。現実を踏まえて生きて行かなければいけません。もうだめだと思つた、まだ、まだと思つたのでは、これから先が違ってきます。私たちは地震の後、多くの人から助けられ、励まされました。思いやりの心も学びました。これも、地震が無ければ体験できないことでありました。大変だけど、皆が復興に向けて、前向きに頑張ればと思えます。

(運営委員 川口)